



稲敷市 ガラス工房カフェ併設の家

20



一軒家のリフォーム

Inashiki Ctiy

Kさんは稲敷市の自宅で古民家カフェを営む70代女性。北茨城市に生まれ3歳まで過ごした後、両親の仕事の都合で埼玉県川口市へ。都内で広告代理店など様々なキャリアを経て、60歳の時に定年退職。ご自身の趣味でもあるガラス工芸に本格的にチャレンジがしたいということと、実妹もカフェをやりたいという思惑が一致。稲敷市内の古民家を見つけ購入し、リノベーションを実施し、2010年12月に稲敷市へ移住。直後に東日本大震災で被災するも、実妹と共に自宅併設の古民家カフェをオープンした。今では訪れるお客様からたくさんの刺激を受け、ヨガやお琴など新しいことにも積極的にチャレンジ。明るく前向きで地域にもすぐに溶け込み、移住からあつという間に13年が経過。現在はカフェを一人で切り盛りしながら、念願のガラス工房や庭いじりなどさらに新しいチャレンジも始めている。

Q. 空き家を購入したきっかけは何ですか？

定年退職後、趣味だったガラス工芸を本格的にできる家を探していました。立地や環境にはあまりこだわりはなくて、昭和レトロな雰囲気のある建物や風情のある古民家が好きだったので、特に建物の外観と内観を重視していました。

妹が茨城県内に住んでいるので、茨城の素敵なカフェとかギャラリーを度々訪れていましたし、ガラス工房のお隣で一緒にカフェをやりたいと言っていたので、そんなご縁もあって茨城でも物件を探しました。





Q. どのようにして空き家を探しましたか？

どのエリアにするかとかは全くこだわりはなくて、とにかく素敵な佇まいの古民家や建物を探していました。古民家専用のインターネット情報サイト(※空き家バンクではない)のようなものがあって、たまたまそのサイトでこの物件を見つけられました。

今は空き家バンクという制度が充実してきているようですが、物件を探していた当時(2010年頃)は空き家バンクを実施している自治体が少なかったですし、そもそも当時は全く知らなかったのです。むしろ自分でどんどん探したり調べたりするのが好きなので、結果としてお気に入りの物件に巡り合うことができて良かったです。

Q. 物件を購入する決め手となったポイントは？

物件を探し始めてから数件見たんですがどれもあまりピンと来なかったんです。でも、5軒目にこの家を初めて見たときに、古民家らしい風情と雰囲気だったり、室内に入った時すぐにインスピレーションが湧いてきました。その瞬間に目がハートになるくらいとても気に入ってしまっただけで、7年くらい空き家になって放置されていたようで、確かに荷物も残っていましたが掃除も必要な状態でしたが、建物としてはしっかりしていたのですぐに購入を決めました。



Q. 行政のサポートなどはどのようなものがありましたか？

移住についてはあまり行政のサポートなどを受けたということはありません。笑 カフェを始めてからは商工会に加入して、経理面でのサポートでお世話になっているくらいですね。やりたいことがあるとすぐに自分から行動してしまうタイプなので…身内や友人からのアドバイスを聞きながら、たくさんの方に協力してもらってこれまで楽しくやってこれました。行政のサポートに依存してしまうよりは、自分で責任を持って進めてきたことが逆に良かったのかなとも思っています。



Q. 物件の購入とリノベーションにかかった費用について教えてください？

物件の購入費用は850万円です。販売価格からちょっとだけ値引きしてもらいました。リノベーションの費用としては、縁側のサッシが落ちてきてしまうような状態だったので、サッシの交換と補強、縁側の床の張り替えなどを行いました。カフェも当初からやる予定だったので厨房などはそれなりに費用をかけました。トイレも元々きれいに直してあったし水洗化されていたので、その点も本当に良かったですね。雨漏りやシロアリによる大きな影響もなく、やっぱり購入する前の状態を専門家や知識のある人と一緒に見て決めるのはとても大事なことなんだと思います。妹の伝手で知り合った大工さんが本当に素敵で、仕事も丁寧で腕が良く、建物の佇まいを大事にするセンスに感動して、その後はもうその大工さんにお任せという感じでリノベーションをしてもらいました。

Q. この地域にはお家もそれなりにありますが、地域との関わりはありますか？

この地域は全部で50世帯くらいあります。引っ越してきた当初からご近所の方やすれ違う方にはこちらから挨拶をしたり、声を掛けて積極的にコミュニケーションを図りました。私自身が妹と一緒に初めからカフェをやる予定でしたし、地域の方々との関わりはとても大事なことだと思っていたので、それですぐに町内会にも加入しました。元々この家に住んでいた方は田んぼをやっていたようで、その経緯もあって田んぼの草刈り作業は男性方に混じって積極的に参加しています。今では野菜をもらったり、コーラスサークルにも声を掛けてもらったりと、本当にこの地域に溶け込んで楽しく暮らすことができています。

Q. 今後はどのように暮らしていきたいですか？

おかげさまでカフェにもちゃんとお客さんが付いてきたので、これからは私が本来やりたかったガラス工芸とか庭いじりも楽しんでいきたいと思っています。住んでみて分かったのは庭が広くて手入れが本当に大変だということ。春になるとすぐ草が生えてきて、実際に住んでみて庭の手入れの大変さを実感しています。でも、これだけ広い庭をもっと活かして和風と洋風のテイストを取り入れた植物とかハーブを植えたりして、しっかり手入れしていきたいですね。今はそれが楽しみです。

